

野生動物を「獲って食う」、昔から行われてきたこのあたり前のことを私たちの生活の中に取り戻すために、TWIN(The Women in Nature)を立ち上げました。TWINは北海道の女性から成る団体で、メンバーは32名、そのうち20名がハンターです(2013年3月現在)。日本のハンターは今や「絶滅危惧種」と表されるほど、数は減少傾向にあり、また高齢化も進んでいます。一方で、女性ハンターに注目してみると、ハンター全体に占める割合は少なく、

います。狩猟においては「食う」部分も大きな割合を占めます。日本全国で人との軋轢が問題となつているシカですが、海外では林産物として広く認識されており、その資源的価値の高さが知られています。美味しいだけでなく、栄養面でも優れた食材です。日本においても森林の産物としての資源利用を進めるために、美味しいものに目がなく、家庭の食卓を握っている女性の力が重要となると考えています。TWINには、管理栄養士やカフェのオーナーなど、幅広くシ

見て、自分もやってみたい、と単純に感じたのがきっかけです。現在は独立行政法人森林総合研究所の研究者としてシカの研究に携わっており、仕事面で銃を使う機会も少なくありません。今や、野生動物管理において、銃は必須の道具と言えるでしょう。ただし、もちろん安全に扱うことが大前提です。そこで、私も講師となり、NPO法人西興部村猟区管理協会主催で新人ハンターや学生を対象としたハンティング研修会を定期的に行っています。この研修会では、安全

緑のエッセイ



●プロフィール
(独)森林総合研究所北海道支所研究員、酪農学園大学特任准教授。2012年秋に女性のハンティングネットワークTWIN(The Women in Nature)を設立。狩猟歴14年。博士(獣医学)。千葉県出身。

全国で約0・8%、北海道で約2%にすぎないですが、実はその数は漸増しているのです。何事にも積極的な女性ですから、今後狩猟の担い手として重要な存在になるのではと思います、女性の狩猟環境を整えることが大切と考えるようになりしました。そこで、まずはネットワークを作ろうと、TWINを立ち上げたわけです。銃などの狩猟の道具や狩猟のスタイル、美味しい獲物の食べ方などの情報をみんなで共有して発信し、狩猟がもっと楽しくなる活動をしたと思って

カ肉と付き合っている会員もいますので、今後はTWINの活動を通して家庭の食卓にシカ肉があがるような生活を作りたいと願っています。とくに、旬の美味しいシカ肉が入手可能なクリスマスにシカ肉を食べる文化を作るべく、「クリスマスにシカ肉を」、を合言葉にシカ食文化を進めていきたいと思っています。私自身は学生時代に銃の許可を得ました。そのころからシカの研究をしていたのでハンターと知り合う機会も多く、皆さんがとても楽しそうに狩猟をしているのを

な銃の取り扱いや獲物の衛生的な解体方法などを伝え、マナーの良いハンターを増やすことを目指しています。このようなハンターを増やし、また女性がハンティングにかかわることでハンターを身近に感じてもらい、ハンター全体のイメージアップにつなげることが、ハンターの減少を食い止めるポイントになると期待しています。ハンターは、野生動物から森林を守るために欠かせない存在ですので、「絶滅」を避けるための取り組みを続けたいと思っています。